

詠む広

新年
ことば

母衣打ち

加藤 治郎



羽ばたいて雉の鳴くときあらあらと
ニッポン軍の出撃である
ぼんぼんほんアトミックボム朽ち
果てて夜明けの海に少年は泳ぐ

愛と差異

水原 紫苑



愛は差異のうちに存するか一人として同
じものなき人間をきみは愛す
降誕のよるこひこそは受苦のため死
をこゆるためわれら等しく

闇と光

伊藤 一彦



「困難に負けない」の花言葉もつつ
はぶきの黄を闇は消したり
海よりの明けの光にいちちはやく声あ
げる黄は昨の黄ならず

冬 眠

米川千嘉子



冬眠の生きものたちのさまざまな体
温灯る木の洞、岩穴
栗鼠の眠りはふかく熊の眠りは浅い
といふ洞にいのちの溜まるかなしさ

毎日歌壇

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

心配だなあ、たなあ、たなあ、踏切がかんか
んと鳴り立ち尽くした 山形市 新道百白子

△評▽踏切の警報音に心配な気持ちがつ
のる。7333576の特異なリズムだが
31音である。結句の6音に空白感がある。

土曜日に君にギターを教わって、指が痛く
て、好きだと思ふ 名古屋市 森本 有

△評▽指の痛みを消し去るような君への
思いである。唐突な感情の表し方が巧み。

半分にちぎって渡すあんどうナツ誰かのた
めの約束のように 川崎市 新井 将

一冊の本を買おうかそのために電車に乗っ
て揺られて眠る 東京 畑 えな

この部屋は港あなたがたに寄りそして帰っ
て行くための場所 北九州市 もりともみち

耳鳴り まるで忘れただれかの名前 誰も知らな
いでも生きていた 宮古島市 塩見 洋

光りたかない星だっているだろう僕は期
待しすぎてないか 福岡市 西田 浩之

はらはらと記憶が風に飛ばされてゆくのを眺
める夢を見ていた 四万十市 佐竹 紫円

ゆく宛のない封筒とゆびさは宙に漂うや
さしい愛撫 兵 庫 廣澤 真希

チャボが二羽境内におり見る人がかわいね
えかわいねえと云う 大津市 佐々木敦史

ほろほろと呪いがとけてゆくように珊瑚の
産卵ははじまる さいたま市 雨谷 詩穂

△評▽サンゴもまた生き物だという驚き
と、彼らの信じられないほどの喜びを思
う。私たちもきっと同じだ。

肉体が重くてたどりつけないよ天国はプラ
スチックのにおい 加古川市 石村 まい

△評▽プラスチックに汚染された天国
は、とてもとても遠いだろう。

真夜中の青馬が海を産むようにうつつの中
をメモに残した 大阪 中村 杏

貰ひ損ねし銀環は海底にきつとある 極夜
をわたくし 東京 吉岡 耕大

鳳仙花種が弾けて飛んで行くきたいとこ
があるわけじゃなく 町田市 岡 良

冬の夜 母が無言で置いてった机の上の古
い履歴書 熊本市 夏風かをる

青空の奥底にある一点に縫われて息もつけ
ないふたり 東京 岩本 遥

今ここで暮らしているの 傘を差すほどで
もなく降る天気雨に 所沢市 里見 脩一

薔薇の毛を梳かす私に降っている怒濤のよう
なデクレッシェンド 岡山市 松井 度

陽の色の葉を脱ぎ捨てたフラタナス 空のし
くみが変わったという 東京 石川 真琴

全米は泣かせなくてもあなただけ笑わせた
から短歌やめない 福津市 原田 冬

△評▽「全米」と「あなただけ」、「泣
かせ」と「笑わせ」の対比が面白い。

二週間かかった歌をAIに二秒で添削して
返される 東海市 中山あゆみ

△評▽2週間かかった時間と努力に意義
がある。AIには悩みも喜びもない。

読むように味わいたくてシュートレン貢
をめぐると薄く切る 札幌市 住吉和歌子

蒟蒻をさつと茹でてる屋下がり さつと
間に返信が来る 松戸市 小林 里純

寒い夜に飲むホットココア鼻先を羽毛のよう
な湯気が包み込む 相模原市 榎本 ハナ

薄暗きガラスの奥を覗き込む閉店していた
かつての職場 国立市 佐藤 建

揺れる夜眠れぬままに高台へ悪夢の再現二
度とあるまじ 神戸市 前田 達生

ピンと張るサテンのような冬空に飛行機雲
ははさみを入れる 宮崎 門田 藍子

大空に見離された鳥を手にとって大空の目
を盗み茂みへ 池田市 黒木 淳子

グモンとは残酷な言葉ひとこと攻める権
利も放棄させらる 福岡 中村まゆみ

流れ星見つけるように「あれ娘?」デフリン
ピックで踊る星たち 横浜市 島田 和生

△評▽わが娘が登場したうれしさだけで
はなく、デフリンピック開閉会式のダン
スの素晴らしさを楽しく思い出させる。

働いて働いて働いて働いて死と遭遇せり四
十の吾は 春日市 伊藤 亮

△評▽危機一髪で過労死は免れたが「働
いて」のフレーズに不安がつもの。

麻痺残る手で手袋を嵌む夫 手伝ふまい
ぞゆつくりで良し 和歌山 中西 幸代

正月を待たずお節を開封せり父が危篤にな
った年末 横浜市 岩瀬 雅史

イベントのおみくじ作り凶を捨つ二日限りの
かみさまとして 会津若松市 ともりゆめ

迷い人のチラシ見るたびボイジャーの暗く
果てなき旅路を思う 千葉市 与 葉

風邪治る音子の歩幅は伸びに伸び駆けてゆ
きたり此の蒼き星 須崎市 野中 泰佑

介護士の息子は今日も缶ビール二本を下げ
てたんだよと云う 姫路市 おのえ双葉

令和にも習っていると知りうれし亡母と歌
い「もみじ」を孫と 大阪市 鈴木 雅子

大柄な羊の父にねずみの母遺影の写真は午
の孫に笑む 城陽市 近藤 好廣

投稿規定

し、宛先は
部、短歌は
〇先生(希)